

中琉球におけるスタジイどんぐり豊凶調査の 持続可能なモニタリング体制の構築

森林研究・整備機構 森林総合研究所
九州支所 森林動物研究グループ

森林研究・整備機構 森林総合研究所九州支所 森林動物研究グループでは森林に悪影響を及ぼす鳥獣や昆虫の生態の解明と防除、絶滅のおそれのある種や生物多様性の保全に関する研究を行っています。

【活動背景】

スタジイは、中琉球の世界自然遺産地域の顕著な普遍的価値（OUV）を代表する絶滅危惧種の餌として重要であり、その豊凶調査は固有種の保全管理や、有害鳥獣であるイノシシの食害対策に必要です。また、オキナワトゲネズミ、アマミトゲネズミ、トクノシマトゲネズミと、これらの絶滅が危惧されるネズミ類の絶滅リスクの評価や、交通事故対策を検討するうえで、スタジイ堅果の豊凶は重要な要因となっています。

【活動目的】

スタジイどんぐりの豊凶調査を行い、中琉球における絶滅危惧種を保護するために地域住民の方々や、学校と連携し、持続可能なモニタリング体制を構築することが目的です。

【団体からのメッセージ】

本助成金事業を通じて、世界自然遺産に登録された中琉球の3島（奄美大島、徳之島、沖縄島）で連携したスタジイどんぐり豊凶調査の体制の構築を実現することができました。この体制を活かしてモニタリングを継続し、今後も地域の連携を深め、データが希少種の保全やイノシシの食害対策などに広く活用されるよう、取り組みを続けていきたいと考えています。助成を頂き、大変ありがとうございました。



2023年10月奄美自然観察の森にて



【助成金の用途・活動結果】

助成金は、調査費用や、島間の移動費、調査実習の委託費に活用されました。結果として奄美大島、徳之島、沖縄島で合計184本のスタジイを標本木として設定し、134人の方に調査実習を体験していただくことができました。上記3島のそれぞれの高校と連携し、授業や生物部の活動を通して豊凶調査について周知することができました。樟南第二高校（徳之島）との取り組みは奄美新聞に掲載されるなど反響がありました。

中琉球どんぐりパンフレット編集委員会（2024）「中琉球どんぐり調査2023年秋活動報告」国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所，九州支所，熊本，4 pp

右のQRコードよりダウンロードできます。

